

「敬天愛人」

(マルコ12:28-34/マタイ22:34-40/ルカ10:25-28)

挽地茂男

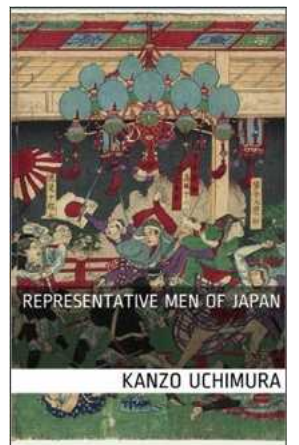
2019.4.28 日本基督教団千歳丘教会礼拝



1961年に第35代アメリカ合衆国大統領に就任したのは、John F. ケネディでした。ケネディは就任直後の記者会見で、日本人記者に「尊敬する日本人は誰か」と質問されます。ケネディは、誰と答えたと思いますか。彼は「Uesugi Youzan」と答えます。上杉鷹山は第9代目の米沢藩主で、領地返上(つまり没落)寸前の米沢藩再生のきっかけを作った江戸時代屈指の名君と呼ばれて、日本では有名ですが、通好みの人物と言いましようか、外国の人が知っているとは少々想像しにくい人物です。実は、ケネディは内村鑑三の『代表的日本人』という著作を読んでいたのです。この本は、内村鑑三が1908年〔明治41年、内村47歳

の時〕に外国に向けて英文で書いた本なのです(Kanzo Uchimura, *Representative Men of Japan*, 1908.4 [M41], 警醒社書店)。内村はこの本の中で、「代表的日本人」として5人の人物を取り上げています。2番目に取り上げた人物が、上杉鷹山なのです。

ちなみに内村鑑三が代表的日本人の最初の一人として紹介したのが西郷隆盛なのです〔5人の代表的日本人とは、西郷隆盛、上杉鷹山、二宮尊徳、中江藤樹、日蓮〕。西郷隆盛〔1828年1月23日―1877年9月24日〕が西南戦争で最期を遂げた年、内村〔1861年3月23日―1930年3月28日〕は16歳、思春期の多感な時期を西郷隆盛と同じ時代を生きていたことになります。西郷隆盛は少年から青年に成長していく内村に強い印象を残したに違いありません。西南戦争では賊軍として討伐された西郷隆盛が、大日本帝国憲法が発布された1889(M22)年憲



法発布の大赦で正三位を追贈され、
ついでこれを記念して伊藤博文や板垣退助・大隈重信・黒田清隆ら51人が発起人となり、上野公園山王台に銅像を建設することになります。翌年それにあわせるように、西郷の姿だけではなく、その精神を世に知らしめようと『南州翁遺訓』が1890(M23)年1月18日に出版されます。これは薩摩藩や薩摩藩士によって出版されたものではなく、かつて戊辰戦争で西郷の官軍と敵として戦い、敗戦を喫した庄内藩の藩主および藩士たちによって刊行されます。戦いに敗れ降伏した庄内藩に対する西郷の寛大な処遇に感激した庄内藩主・藩士たちは、西郷の旅先や鹿児島にまで出向いて教えを乞うようになります。100名近い人々が西郷から教えを受けたという記録が残っています。それらの教えを庄内藩士

みつやとうたろう

三矢藤太郎を中心にまとめたものが、『南州翁遺訓』なのです。そしてその2年後1892(M25)年12月18日ついに上野の銅像(高村光雲作)が除幕されます。その後、西郷隆盛の歴史的評価が少し



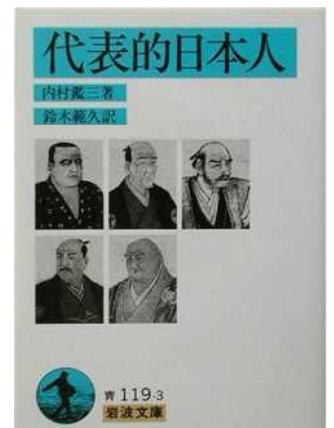
ずつ落ちて着いてきた1908(M41)年内村47歳の時——内村自身も譜代大名の高崎藩士の子弟ですから西郷とは敵味方の間柄であるはずですが——動乱の日本に思春期・青春期を送り、激変する時代の動揺とまた未来に向かうときめきと共に、西郷を「代表的日本人」として取り上げたのでした。

内村は『代表的日本人』の中で、西郷についてこう言っています。

「日本の維新革命は西郷の革命

であったと言っていい。」西郷なくして維新革命はありえなかったと内村は考えているのです。そして西郷が唱えた「敬天愛人」(天を敬い人を愛する)という思想は、維新を始め、それを進める原動力であり、西郷には天の法に基づいた維新の方向を定める精神があった、と言います。

内村鑑三は、西郷の「敬天愛人」の思想を分析してこう言います。「『敬天愛人』の言葉には、キリスト教でいうところの律法と預言者の思想が込められており、わたしとしては西郷がそのような壮大な教え



をどこから得たのか興味深いところである。」西郷が聖書を読んでいたことは、現代ではもはや定説ですが、そんなことを知ろうはずもない内村が、この思想に「律法と預言者の思想が込められている」と見切ったところは、さすがです。

また内村は、こうも言います。「西郷が『天』をどのようなものとして受けとめていたか、それを『力』と見ていたか、『人格』と



見ていたかは定かではないが、彼独自の行動を見る以外には、『天』をどのように崇拝していたかを確認する

方法はないだろう。しかし、西郷にとって『天』は全能であり、普遍であり、きわめて慈悲深い存在であり『天』の法は誰も守るべきで、きわめて恵み豊かなものとして理解していたようだ。」内村は、西郷の見ていた「天」がキリスト教の神(父なる神)に近いものだと見ているのです。

西郷は陽明学を信奉していたのですが、内村によれば、西郷の

「天」の理解は彼が信奉していた陽明学の「天」の理解を超えています。ある西郷の研究者は「西郷が信奉していた陽明学においては『天』はあくまでも、人を超えた力であり法である」という認識はあっても、『天』に人格があり、慈悲深い存在であり、人を愛することなど考えられない」と言っています(守部喜雅『西郷隆盛と聖書』51)。



その研究者はこうも言います。「キリスト者であった内村鑑三は、西郷が言うところの『天』は、キリスト教の正典である聖書に出てくる『創造主なる神』と同じ意味を持っていることに気づいていました。しかし、内村が『代表的日本人』を世に出した頃には、あの西郷が聖書を読んでいたとは夢にも思わなかったでしょう」(守部喜雅、同書、54)。

西郷が聖書を読んでいたということは確実だとしても、聖書が西郷の思想や生き方にどれほどの影響を与えていたのかは、所説わかれるところです。西郷が側近の薩

摩藩士に聖書を読ませた——という言うより読ませようとした——という証言が残っています。

有馬藤太の証言 「間もなく耶蘇教師について取り調べるため、照幡大忠と神戸に出張した。耶蘇のことなど何も知らぬからおおいに閉口した。その点では西郷先生の眼の早いのには感心したものだ。いつだったか忘れたが、ある日西郷先生を訪問すると、『日本もいよいよ王政復古の世の中になり、おいおい西洋諸国とも交際せにやらんようになる。西洋では耶蘇を国教として、一も天帝、二も天帝というありさまじゃ。西洋と交際するにはぜひ耶蘇の研究もしておかには具合が悪い。この本はその經典じゃ。よく見ておくがよい』といいながら、二冊ものの漢文の書物を貸してくれた。『私は無学でコンナむずかしいものはとても

読めません』『自分で読めねば、今藤新左衛門にでも読んでもらえ』

持って帰ったものの読むのはイヤだ。三、四十日ほどたってから先生に返してしまった。今度神戸に出張して、耶蘇教を調べるのにはたと当惑、あのとき一ぺんでも読んでおけば良かったと後悔している」(上野一郎篇 『私の明治維新』)。この証言に従えば、西郷は聖書を西洋理解の一資料として読んでいたということになります。

そのほか、西郷が聖書を教えていた、という証言もあります。鹿児島には島津家よりも旧いとされる川邊家^{かわなべ}という旧家があり、その川邊家に出入りしていた西郷が川邊家で聖書を教えていたという伝聞が残っているというのです。証言者は川邊二夫(かわなべつぎお)氏で曾祖父からの伝承だということとです。

もう一つの証言は、西郷が横浜の教会で宣教師から洗礼を受けた(明治5、6年ごろ)という証言です。それは鹿児島にあります西郷南州顕彰館が主催した「敬天愛人と聖書展」(2007年)を訪れた福岡在住のある男性が当時の館長の



漢訳聖書

高柳毅氏に伝えた伝聞です。それによると、西郷は横浜の教会〔横浜海岸教会？〕の宣教師〔ジェームズ・バラ？〕から洗礼を受けた、その際「これは、秘密にお願いしたい」と西郷は宣教師に懇願し、お礼に豚二匹を宣教師に贈った、というものです。この話は、福岡



最初期の横浜海岸教会

在住のその男性の祖先から言い伝えられてきたもので、その祖先はこの話を日記に残していましたが、残念ながら

がら、その日記は戦災で焼失し、また海岸教会も関東大震災で洗礼台帳などの資料は消失し、この話の信憑性を裏付ける史料は残っていないということなのです。

これらの川邊証言と福岡の男性の証言は興味深い証言ですが、伝聞証言であって物的証拠が無く、これを歴史的証拠として採用するのは不可能です。しかし西郷の「敬天愛人」の思想には聖書の神髄に迫るものがあり、ただ西洋事情を知る参考資料程度に読んでいたとも思いつらいところがあります。

西郷は「敬天愛人」という言葉

を好んで書にしたためました。西郷が揮毫(きごう)した書幅は10幅あり、うち9幅が現在も存在を確認することが可能です。これらは1874(M7)年後半～75年(M8)9月に揮毫されたもので、ふつう西郷が「敬天愛人」の思想に行き着いたのもこの時期と考えられています。しかし実は「敬天愛人」の言葉は西郷隆盛のオリジナルではないことは、現在明らかになっています。



しょうへいこう

そのオリジナルは元昌平黌(昌平坂学問所)の儒学者で、後に(42歳で)キリスト教徒になる中村正直(雅号:敬宇)という人の言葉です。

この中村敬宇のお話は機会を改めたいと思いますが、今日はそのエッセンスだけお知らせしておきたいと思います。中村敬宇は昌平



西郷南州書「敬天愛人」

覺(昌平坂學問所、湯島聖堂)の秀才で、1855年(安政2年5月)若干22歳で昌平覺の教授に任じられます。30歳の時1862年(文久2年)に師である高名な儒学者佐藤一斎〔その著『言志四録』は指導者のためのバイブルと呼ばれ、現代まで長く読み継がれている。人生の指南書とも呼ばれる〕の後を継いで御儒者(江戸幕府の御用儒学者・儒官)に抜擢されます。日本の儒学の王道を行った人です。

そして1866年(慶応2年)幕府のイギリス留学生監督として留学生12名を引き連れて英国に渡ります。10月26日横浜を出発し、翌1867年の元旦にロンドンに到着します。中村はイギリスの発展ぶりに度肝を抜かれます。と同時にその発展の根本に、イギリス人の生活、文化、人格があり、さらにその生活、文化、人格の根本にキリスト教が有ることを見抜きます。彼が理解したキリスト教は、彼の信奉してきた儒教と重なります。「敬天愛人」の思想は、彼の見たイギリス精神の根幹であるキリスト教を儒教の言葉を使って表現したものと考えるこ

とができます。

しかしその頃日本では、徳川慶喜が大政奉還し江戸幕府が倒幕されたために、1868年(明治元年)6月、当初5年の留学予定を1年半で切り上げて帰国いたします。その別れの際に手土産としてSamuel Smiles, *SELF-HELP* という書物を贈られます。中村は、帰りの船中で全文繰り返し読み、その半分を暗記するほど読み込んで、帰国後1870年(明治3年)11月9日に『西国立志篇』の邦題(別訳名『自助論』)で出版、100万部以上を売り上げ、福澤諭吉の『学問のすすめ』と並ぶ大ベストセラーとなります。「福澤は知を教え、中村は徳を教えた」と言われます。



この本の緒論の部分に「敬天愛人」という言葉が出てきます。西郷がこの本から「敬天愛人」の思想を学んだ可能性もあります。しかし中村正直は「敬天愛人説」という文章をすでに帰国直後の1868年(明治元年)に発表しております。この年、徳川宗家(第16代徳

川家達)は駿府に移封(国替え)を命じられ、それにより駿府藩が復活し、その藩校として——昌平坂学問所や開成所、横浜語学所から教授や生徒、蔵書が移され——静岡学問所が開設されます。中村はその学問所の教授として着任いたします(1868年[明治元年])。この時期に、とき同じく静岡学問所の教授であったエドワード・ウォー



レン・クラーク宣教師の人柄に惹かれ、彼の生涯の友となり、同時にキリスト教への傾斜を強めます。この静岡学問所の学生の中に薩摩藩士がおり、その藩士を媒介にして西郷が「敬天愛人」の思想にふれた可能性を指摘する者もあります。この説を含めて考えれば、西郷は、

1868(M1)年—1874(M7)の間に、「敬天愛人」の思想に出会ったと考えられます。

中村正直「敬天愛人説」(1868年[明治元年])の一部を紹介いたします。原文は漢文で書かれています。読み下します。

てんは しょう すなわ わが
天者我ヲ生ズル者、乃チ吾父ナリ。

ひとはわれ な
人者吾ト同ジク天ノ生ズル所為ル
者、乃チ吾兄弟ナリ、天其レ敬セ
ザル可ケンヤ、人其レ愛セザル可
ケンヤ。何ゾ天ヲ敬スルト謂フ。曰
ク、天ハ形無クシテ知ル有リ。質
無クシテ在ラザル所無シ。其ノ大
外無ク其ノ小内無シ、人之言動、
其ノ昭鑒(照覧)ヲ遁レザルコト
論勿シ。…是ニ由テ之ヲ觀ルニ、
天ヲ敬スル者、徳行之根基ナリ。
国天ヲ敬スルノ民多ケレバ、則チ
其国必ズ盛ンニ、国天ヲ敬スルノ
民少ケレバ、則チ其ノ国衰フ。

(天は私を生んだ父であり、人もまた天が生んだ者であるから兄弟である。だから、天は敬うものであり、人は愛すべきものだ。天を敬うとはどういうことか。天は形はないけれどもみながその存在を知っており、質(物質的な形)は見えないが至る所に存在している。無限に大きく無限に小さい、人の言動は、天がみなご覧になっている。であるから、天を敬うことは徳目の実践の基礎である。その国に、天を敬う民が多い国は盛んになり、天を敬う民が少ない国は衰えるのである)

さて今日の聖書に登場する律法学者は主イエスに「あらゆる掟

(ἐντολή)のうちで、どれが第一でしょうか」(v.28)と尋ねます。この律法学者の問いは、これ以前の

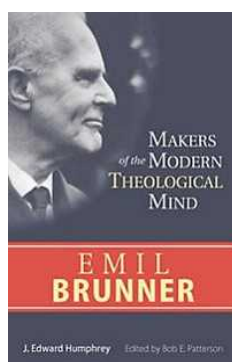


4つの論争が、主イエスを試そうとする動機によって始まっていたのとは違うのです。どうして

彼は、このような問いを主イエスに尋ねてみようと思ったのでしょうか。もう一度28節を見てみましょう。「12:28 彼らの議論を聞いていた一人の律法学者が進み出、イエスが立派にお答えになったのを見て、尋ねた。『あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか』。」主イエスが論敵に見事に(καλῶς beautifully)答えられたのを見ていたのです。その時、主イエスの言葉と行動が彼の興味を引いたのです。そしてその言葉と行動の根っこにある、最も大事にしているものを尋ね出してみたいと思ったのです。彼はこの質問によって、主イエスの敬天愛人の思想に触れることになります。

人の言動からその人の考え方(思想や宗教)を知りたくなることがあります。川田殖先生はよく

エミール・ブルンナー先生のことをお話になりますが、チューリッヒ大学の学長までなされた世界的に有名な神学者が、当時まだ海の物とも山の物とも分からないような国際基督教大学(ICU)にやって来て、その着任の挨拶の中で仰った言葉に、1期生(川田先生は1期生)以下在学生在がノックア



ウトされてしまうのです。ブルンナーはこう言ったそうです。I have come to Japan not as a theologian but one of friends of your.

(私が日本にまいりましたのは、一人の神学者としてではなく、諸君の友人の一人になるためであります)。この言葉を聞いたその日から、学生たちは「エミール・ブルンナーの金魚の糞」になってしまったのです。川田先生は当時のことを振り返って、キリスト教のことはよく分からなかったけれども、ブルンナー先生の信じているものなら間違いなし、と思ったそうです。

人の生涯や行動や言葉からその人の人生観・世界観、思想・信条への興味がかき立てられることが

あります。律法学者は主イエスが一番大切にしているものを問います。



ユダヤ人ですから、ユダヤ人が大切にしている神の掟の中でも、最も大切な第一の掟を問うのです。「あらゆる掟のうちで、

どれが第一でしょうか」(v.28)。

主イエスはこの質問に答えてこう言われます。12:29 イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。12:30 心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』12:31 第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。」(v.29-31)

主イエスは旧約聖書から二つの掟を引用します。第一の掟は、申命記 6 章 4 - 5 節からの引用です。第二の掟は、レビ記 19 章 18 節からの引用です。そして「この二つにまさる掟はほかにない」と主イエスは言われるのです。

第一の掟である申命記 6 章 4 -

5 節の旧約聖書の文言を、見ておきましょう。そしてこれが主イエスの行動の大原則なのです。

申6:4 聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。 6:5 あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。



律法(トーラー)

この第一の掟は、精神と身体すべての機能を動員し

て主なる神を愛することを命じます。しかし旧約聖書の言葉とマルコ福音書の言葉を比較すると、ほとんど同じなのですが、マルコ福音書には「思いを尽くし」という表現がプラスされています。主イエスは「思い」が大切な働きをすることを知っておられるのです。以前に紹介したマザーテレサの言葉を覚えておられるでしょうか。

「思い(/思考 your thoughts)に気をつけなさい、それはいつか言

思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。

言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。

行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。

習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。

性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから。

マザー・テレサ

思考 (神・知恵)

言葉

行動

習慣

性格

運命

葉になるから。言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから」という言葉です。思いは究極的には運命につながります。アドベントの時には、神の思いが究極的に、主イエスの運命につながる、という図式の中でこの言葉を取り上げました。思いは言葉へ、言葉は行動へ、行動は習慣へ、習慣は運命につながっていくのです。全身全霊をもって神を愛せよ、思いを込めて神を愛せよ、と主イエスは仰るのです。「神への思い」が「その人の言葉」となり、「その人の言葉」が「その人の行動」となり、「その人の行動」が「その人の習慣」となり、「その人の習慣」が「その人の性格」となり「その人の性格」が「その人の運命」となる、と読み替えてみて、「神への思い」が「その人の運命」に関わる、ということもできます。

第二の掟は、レビ記19章18節からの引用です。旧約聖書そのものを見ておきましょう。

レビ19:18 復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。

第二の掟は、同じ民族の中で復讐することを禁じた規定です。その復讐を禁じる規定の中



に、隣人（πλησίον）への愛が組み込まれているのです。主イエスは、この復讐の規定を外して、隣人愛の戒めだけを取り出しているのです。またこの規定は、元来、民族の内部だけで機能する倫理規定だったのです。隣人と言えば、同胞のユダヤ民族以外は考えられていなかったのです。しかし、主イエスは、これを全人類に対する神の普遍的な命令、神の心の表明として人々に語ったのです。それゆえ、主イエスはユダヤ人と異邦人の民族の境界線を越えていきます。そして主イエスは「この二つにまさる掟はほかにない」と断言されます。



この主イエスの答えを聞いた律法学者は、賛嘆の声を発します。

32－34節。

12:32 律法学者はイエスに言った。「先生、おっしゃるとおりです。『神は唯一である。ほかに神はない』とおっしゃったのは、本当です。12:33 そして、『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛する』ということは、どんな焼き尽くす献げ物やいけにえよりも優れています。」 12:34 イエスは律法学者が適切な答えをしたのを見て、「あなたは、神の国から遠くない」と言われた。もはや、あえて質問する者はなかった。

共観福音書(マタイ、マコ、ルカ福音書)の並行記事を見ると、今読みました32－34節はマルコ福音書にだけに見られる内容なのです。マルコはここが大事であると思っていることは確かです。



律法学者の反応を纏めておきましょう。まず彼は(1)イエスの返答を見事・美

しい(Καλῶς)と判断します。「先

生、おっしゃるとおり

です」は言葉が多すぎ

ます。単語は2つしか

使われていません。直

訳しておきます。「先生、

見事です。」そして(2)

彼は主イエスの返答を

全面肯定(ἐπ' ἀληθείας

εἶπες)しています。「…とおっし

ゃったのは、本当です…。」これ

も直訳しておきます。「あなたは

真理に基づいて語られました。」

つまりその律法学者は主イエスと

共通の真理を基盤としている、と

言っているのです。その真理とは

(3)「神は唯一である。ほかに神

はない」という唯一神信仰をさし

ています。律法学者は主イエスと、

この唯一信仰を共通の基盤として

いることを確認しています。そし

て彼は、(4)「『心を尽くし、知恵

を尽くし、力を尽くして神を愛し、

また隣人を自分のように愛する』

ということは、どんな焼き尽くす

献げ物やいけにえよりも優れてい

ます」と、全身全霊をもって神を

愛し、自分と同じように隣人を愛

することは、(神殿で行われている)

すべての祭儀や奉献より優れ



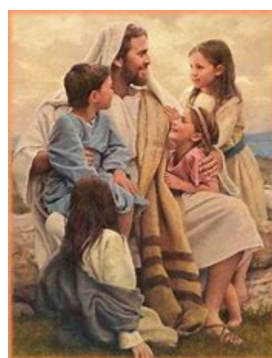
ているという自覚を表明します。

(5)この律法学者は、礼拝と敬虔の本質を知っています。彼は、神を愛し人を愛することが「**どんな焼き尽くす献げ物やいけにえよりも優れています**」と語ることによって、キリスト教共同体がユダヤ人の祭儀に参加することなしに、律法の掟に表現された神の意志(思い)を実現することが可能であることを認めていることとなります。物よりも愛の掟が優先されるというこの主張は、マルコ7章の、清さが先祖の言い伝えた規定通りに手を洗うというような外面的な儀礼行為によってではなく、人の心の内面性によって決定される、という主イエスの主張(7:1-16)と重なります。

律法学者の言葉に主イエスは応答します。「**あなたは、神の国から遠くない。**」しかし主イエスのこの発言は、その律法学者は神の国から遠くはない、と彼を評価すると同時に、神の国が彼のものになってはいない、とも言っているのです。主イエスは「神の国はこのような者たちのものだ」と子どもたちに向かって言われたことがあります。マルコ福音書10章

13-15節。

10:13 イエスに触れていただくために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。10:14 しかし、イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げではない。**神の国はこのような者たちのものである。**10:15 はっきり言うておく。子供のよう



うに神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」10:16 そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。

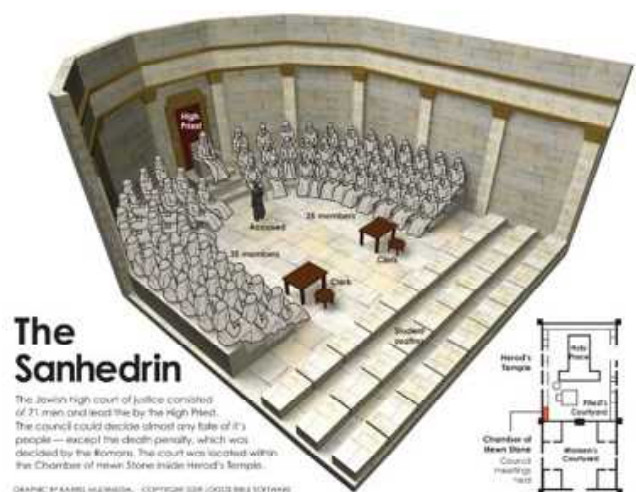
子どもたちは、議論なしで、主イエスが近づいてもよい方なのかを知っています。子どもたちは、その点で——難しい議論などできなくても——健全な理性と知性の持ち主なのです。主イエスを知るのに理屈はいらないのです。主イエスを知るのに過剰な理性も知性も必要ありません。ただ理性も知性も、神と主イエスに対して開かれていることだけを必

要としているのです。この律法学者は、神の国から遠くない位置にいるだけでなく、子どものように主イエスの懷に飛び込むことが必要なのです。多くのものを捨てても。

エルサレム神殿での論戦の末、主イエスに近い位置に留まったのは一人の律法学者だけでした。こうして、主イエスに「**もはや、あえて質問する者はな**」になります(v. 34)。サンヘドリンの宗教指導者たちは、論争では主イエスに勝てないことを自覚したのです。しかし彼らは、主イエスを亡き者にするという願望を捨てたものではありません。イエス殺害の策謀は、神の国から遠いところで、さらに深く潜行することになるのです。

敬天愛人。神を愛し、人を愛する新しい一週間でありますように。祈りましょう。

2019. 4. 28 日本基督教団千歳丘教会礼拝



12:28 彼らの議論を聞いていた一人の律法学者が進み出、イエスが立派にお答えになったのを見て、尋ねた。「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか。」

12:29 イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。』

12:30 心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』

12:31 第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。」

12:32 律法学者はイエスに言った。「先生、おっしゃるとおりです。『神は唯一である。ほかに神はない』とおっしゃったのは、本当です。」

12:33 そして、『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛する』ということは、どんな焼き尽くす献げ物やいけにえよりも優れています。」

12:34 イエスは律法学者が適切な答えをしたのを見て、「あなたは、神の国から遠くない」と言われた。

もはや、あえて質問する者はなかった。

12:28 Καὶ προσελθὼν εἰς τῶν γραμματέων ἀκούσας αὐτῶν συζητούντων, ἰδὼν ὅτι καλῶς ἀπεκρίθη αὐτοῖς ἐπηρώτησεν αὐτόν, Ποία ἐστὶν ἐντολὴ πρώτη πάντων;

12:29 ἀπεκρίθη ὁ Ἰησοῦς ὅτι Πρώτη ἐστίν, Ὑκούε, Ἰσραὴλ, κύριος ὁ θεὸς ἡμῶν κύριος εἷς ἐστίν,

12:30 καὶ ἀγαπήσεις κύριον τὸν θεόν σου ἐξ ὅλης τῆς καρδίας σου καὶ ἐξ ὅλης τῆς ψυχῆς σου καὶ ἐξ ὅλης τῆς διανοίας σου καὶ ἐξ ὅλης τῆς ἰσχύος σου.

12:31 δευτέρα αὕτη, Ἀγαπήσεις τὸν πλησίον σου ὡς σεαυτόν. μείζων τούτων ἄλλη ἐντολὴ οὐκ ἔστιν.

12:32 καὶ εἶπεν αὐτῷ ὁ γραμματεὺς, Καλῶς, διδάσκαλε, ἐπ' ἀληθείας εἶπες ὅτι εἷς ἐστίν καὶ οὐκ ἔστιν ἄλλος πλην αὐτοῦ.

12:33 καὶ τὸ ἀγαπᾶν αὐτόν ἐξ ὅλης τῆς καρδίας καὶ ἐξ ὅλης τῆς συνέσεως καὶ ἐξ ὅλης τῆς ἰσχύος καὶ τὸ ἀγαπᾶν τὸν πλησίον ὡς ἑαυτόν περισσότερόν ἐστιν πάντων τῶν ὀλοκαυτωμάτων καὶ θυσιῶν.

12:34 καὶ ὁ Ἰησοῦς ἰδὼν (αὐτόν) ὅτι νουνεχῶς ἀπεκρίθη εἶπεν αὐτῷ, Οὐ

μακρὰν εἶ ἀπὸ τῆς βασιλείας τοῦ
θεοῦ. καὶ οὐδεὶς οὐκέτι ἐτόλμα αὐτὸν
ἐπερωτῆσαι.